

令和2年度第1回青少年問題協議会 議事録

日時：令和2年11月2日（月） 19時～20時30分

場所：生涯学習センター2F 学習室1

出席者：委員14名（2名欠席）

事務局3名（生涯学習課 大塚課長・大森社会教育指導員・小林）

議題：「ネットいじめの現状と対策」

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 青少年問題協議会の役割
 - 条例をもとに協議会の役割を説明
 - 副会長2名を選出…事務局より山下仁様・渡邊宏行様の2名を提案→承認
- 5 グループワーク（4～5人ずつ3グループ）
 - テーマ「ネットいじめの現状と対策」について協議
 - グループワークの前に事務局からテーマの概要を説明

議題1 なぜ「ネットいじめ」が起こってしまうのか？を考える

- ・ネット上での行為に善悪の判断ができていないため
 - ⇒児童は知識が浅いため、そのことに関する学びの機会が少ない
- ・いじめをしている意識がないため
 - ⇒ネット上では相手の様子がわからない、嫌がっているかの判別がつかない
- ・ネットは憂さ晴らしの場として丁度いいため
 - ⇒匿名で行動できる

議題2 ネットいじめを抑止・防止する対策は？を考える

グループワーク内で提案された対策案を次頁に記載する

6 閉会

ネットいじめ抑止・防止対策“案”

1. 学校を中心とした啓発運動

概要：講演会を主に市内小中学校でネット上での危険行為等を学ぶ場を作る

対象：市内小中学校の学生及びその親

内容：教育課程において、以下のような取り組みを実施する

- ① ネット上での責任や刑罰について教える
- ② 道徳の授業における「情報モラル」の学習を充実させる
- ③ 親に問題意識を持たせる（学級懇談会等で促す）

2. 家庭を中心として啓発運動

概要：家庭でネットいじめを抑止・防止できることを啓発する

対象：青少年を持つ親

内容：家庭教育において、以下のような取り組みを実施するように指導する

- ① 親自身が人を尊重している姿勢を子に見せる
- ② 親子の会話を充実させる
- ③ 人を傷つけてしまう恐れがある行為が何かを日々生活の中で教える
- ④ SNS等を利用する際は親のアカウントを使用するといったルール作り

3. 幼児期から情報モラルの教育

概要：ネットに係わる前の段階からネットの危険性を教え込む

対象：市内の幼児及びその親

内容：幼児期からネット上でやっていいこと、いけないことの判別を定着させる
絵本や紙芝居のような形式で、ネットの怖さを教え込む

4. ヘルプデスクの設置

概要：ネットいじめに特化した相談窓口を設置する

対象：全市住民（主に青少年とその親）

内容：ネットいじめ等のネット上で困っていることが相談できるようにする
担任や両親へ相談しづらいときに利用してもらうことを想定